

地区だより

新年明けましておめでとうございます。

皆様、御家族御揃いで穏やかな新年を、それぞれ信念を胸に迎えられたことと思います。

去年は種々の要請に対し、一方ならぬ御協力を頂き誠に有難うございます。政界は目まぐるしく変わりましたが、年は改まりましても経済情勢は余り変化を見せようとしていません、一方技師会においては安閑としている暇は無いように思います。各地に大学が開校されている中に、各種学校の設立、開校を目指す団体が蠢動すると言う相反する活動が有り、又他団体が放射線の使用を許可するようと言う働きかけ、放射線技師に指示を出せるように法改正を狙う団体と、よそ見をしていると足下を掬われ兼ねない状況に成っています。今年の干支は猪、猪突猛進では何処へ行くか判りません、ちょっと走りを緩め回りを見回し、考える“いのしし”となり、自分の今は、後輩の将来はと、考えて見る1年として見ませんか。

平成7年、皆様にラッキーセブンと成りますことを御祈りいたします。

西湘放射線技師会々長 大木達也



平成6年度 西湘放射線技師会・地区委員活動報告

第1回 5月19日 県技師会事務所

- 内容 ・新役員・委員会の組織化について
- ・事業の分担化について
- ・臨床実習指導者講習会について

7/24, 31, 8/23, 9/23, 25 鶴見歯科大にて開催

第2回 7月7日 エーザイ(株)横浜支店4F会議室

- 内容 ・拡大委員会(地区委員兼ねる)
- ・大学院設置問題について(放射線技術科大学院設置募金依頼)
- ・各委員会事業計画案について

第3回 9月16日 県技師会事務所

- 内容 ・大学院設置募金について
- この時点で県全体の募金率約30%
- ・学校問題について

帝京大学の専門学校に端を発し次々と認可希望が出てきている。
埼玉、大分、鹿児島、沖縄等で技師会が圧力を掛けてゆく方針。
技師会は人事院2号俸アップの大学のみを作っていく方針。

- ・第10回神奈川学術大会開催について
- ・神奈川県内における診療放射線技師の実態調査

第4回 11月17日 県技師会事務所

- 内容 ・大学院設置募金について
- この時点で県全体の募金率約38.8%(10月31日現在 西湘地区 28%)
- 目標として、12月末までに80%、
- 来年3月末までに100%にしたい

- ・学校問題

大分に専門学校(3年制)が設立した。
鹿児島に医師会立(3年制)が設立しそう。
神奈川・昭和大学(短大3年制)は設立延期。

- ・神奈川県医療技術者連合会の発足を企画
- 診療放射線技師会、臨床検査技師会、栄養士会、臨床工学会、理学療法士会、作業療法士会等で年2回親睦会を行いたい。

上記の会で在宅、介護、福祉医療等21世紀の医療を考える。

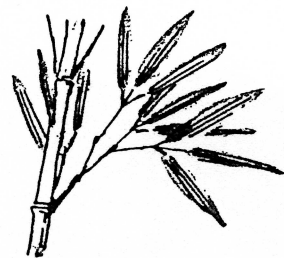
- ・関東地域学術大会について

95年6月2日~4日まで行われる。演題募集。

- ・呼称の変更依頼
レントゲン室・科をX線室・放射線科に
ポータブル撮影を病室撮影に
- ・神奈川県放射線技師登録 1262名
潜在的には1700名位存在

第5回 平成7年1月19日 県技師会事務所

- 内容
- ・大学院設置募金について
12月27日現在にて県全体の募金率63%、西湘地区48%。
鹿児島では100%達成。
 - ・神奈川県医療技術者連合について
 - ・第3回神奈川学術振興フォーラムについて（詳細は神奈川放射線誌）
会場は湯河原。西湘地区会員には協力を願いたい。
 - ・組織委員会の事業について
各種医療職能団体の調査（案）
県内における診療放射線技師数の実態、調査報告。
 - ・その他
平成6年度地区助成金決定金額
西湘地区 申請人数75名 決定人数75名
支払決定金額 15000円



—おねがい—

日本列島は兵庫県南部地震で幕が開く最悪なスタートとなりました。我が放射線技師会も益々厳しい時代へと突入しつつあります。それは現在も放射線技師専門学校開設が計画されていることでもあります。近い将来放射線技師が過剰になることは必至となりました。いや、もう過剰と言ってもいいと思われます。新卒の就職も希望の職場へ行くのが厳しくなっていると聞いております。平成7年度は2大学が開学し合計6大学、全国の診療放射線技師教育機関は35校となります。ちなみに昭和58年は28校でした。当時はCT装置が全国に爆発的に普及し技師数が足りず、病院はCT業者に対し技師を付ける条件で装置を購入するという施設もあったほどでした。しかし、その時代は既に過ぎ去り、平成に入り病院施設も毎年減少の一途をたどっています。それにもかかわらず横浜に専門学校の設立の情報が入ってきました。もうやりきれない気持ちです。新年早々暗い話になりましたがこの現状の中なんとか光を見いだすためにも1日も早く大学院を設置することです。是非、是非、募金未納の方は3月までに100%になるようご協力下さい。

<地区委員・坂本>

平成6年度秋期講演会報告

平成6年11月11日(金)小田原市中央公民館にて
『最近の画像処理ワークステーション』 松岡慎一氏

『河原の呟き』 石川政彦氏

講演会を終わって

今回の秋期講演会は堅苦しい勉強から離れ、他分野で活躍されている方を招き話を聞く企画としました。当日”何人出席するかなあ”と不安な気持ちで受付に立っていると、皮ジャンにブーツという出で立ちでハーレーダビットソンを乗り回してマルポロで吸っていきそうな長州力の顔に似た男の方がやって来ました。

”すごーい、こんな方がいたかな、もしやその筋の方が此処へ?”など色々な考えが頭の中を駆け巡っていると、礼儀正しく「石川」ですと言われました。なんと今回の演者ではないですか!、思わず”危険物はこちらへお預けください”と言ってしまう所でした。

実際に講演が始まると、24人という出席数にも関わらず会場に響き渡る程の大きな声とジェスチャーを交えながら熱っぽく語り始めました。まずボクシングと親子の関わり、青春時代のアメフトの事、大学時代の先輩後輩の上下関係を自己紹介を交えて話され、続いてカーヌとの出会い、そして現在のカーヌを多くの人に広めるための努力へと話は展開し会場はユーモア溢れる話にどんどん引き込まれていき、あまりのおかしさに腹筋痛をおこす人、目尻に感涙たっぷりの人と盛り上りました。

本題の『自然の呟き』では、4駆の自動車が人気でアウトドアライフが巷で流行っている昨今、本当の遊び方をよく理解もせずキャンプやルアーによる川釣りを楽しんでいる人々に対し、辛口の意見を述べ自然の大切さ自然の限りを訴えられました。一時間半の短い時間の為、石川政彦という人物のほんの一部しか触れられませんでした。それでも人間性と人望を感じ、そして我々の遊び心に喝を入れられた様な気がしました。機会が在ればまたお話を聞かせて頂きたいと思えます

最後に貴重なお話をして頂き石川氏に深く感謝を致します。

学術 百武

がんばれ 神戸

診療放射線技師の大震災

1月17日火曜日 震度6の大地震が神戸を襲い、30日現在 死者5093名を出す大惨事となってしまいました。連日、新聞やテレビで報道される状況に明日はわが身と背筋の凍る思いをした方も多いと思います。

五階部分が潰れてしまった神戸市立西市民病院のように神戸市では70ある中規模の救急指定病院のうち5病院が完全に破壊されました。地震直後から、電気・ガス・水道が途絶えた病院で、その時放射線技師はどう行動したかを、ようやく電話が通じ始めた1月28日から30日の間に被災した各病院へ電話でインタビューしました。

- ①病院全体の状況はどうか
- ②放射線室の機器類はどうか
- ③地震当日の状況はどうでしたか

尾原病院 神戸市須磨区

- ①病院の建物の一部ヒビが入った程度で大きな損傷はなし。
- ②透視台が少しずれた、自現機は異常なし。
- ③水道・電気は午後に復帰した、活断層の山側のため被害は少なかった。
17日は一般診療はストップして救急患者優先にしたがさばききれなかった。
神戸市の診療放射線技師会会員の家族が4～5名亡くなったと聞いている。

金沢灘病院 神戸市灘区 門田 技師

- ①建物全体に亀裂が入り、応急の補強はしているが余震で崩れる恐れがある。
病院は診療している
- ②3日間は稼働出来なかった、コントローラー・高圧トランスの転倒、自現機の液混ざり等。透視台は29日復旧して現在は全部稼働している。
- ③当日は4名の技師のうち2名が出動できたが、放射線室が使えないため職員全員で患者さんの診療介助にあたった。

甲南回生診療所

- ①診療所は次の日からなんとか診療している。
- ②放射線室は足の踏み場もない程、物が散乱していつまで稼働していない。
- ③技師さんは足が不自由なため通勤が困難でまだ休んでいる。

神戸朝日病院 神戸長田区 大西 技師

- ①病院建物の壁にヒビが入った。
- ②一般撮影コントローラの転倒で基盤が壊れた。トランスが移動した。
CTその他は無事だった、自現機も問題なし。
17日は非常電源のためポータブルのみ稼働、3日目に三相が復帰した。
- ③たまたま当日2名いる放射線技師の1名が当直していた。
大西技師は大阪から18日にミニバイクで出勤した。

市立芦屋病院 芦屋市 岡部 技師長

- ①建物の壁にヒビが入った。
- ②ウロ・ギネのコントローラの転倒、アンギオ室のリレーボックスが倒れて管球にあたり管球の破損。CT室天井の給水管が折れてCT室が水びたし。
MR室の静磁場が崩れた。自現機は液が混ざり当日は使用出来なかった。
- ③7名の技師の内6名は当日出勤、1名は家が倒壊したため自宅待機。
電気は当日すぐ復旧したが、放射線室は使用できなかったのでストップ翌日から自現機の水を井戸水で補給しながら稼働、CTも頭部のみなんとか撮影した。

西宮市立中央病院 西宮市 大久保 副技師長

- ①壁にヒビが入り廊下に段差ができた、給水塔にヒビが入って断水。
ガス・水道はまだ不通、電気はすぐついた。
- ②一般撮影・CTのコントローラの転倒、高圧トランスの移動、シンチカメラの脱線、MR室の静磁場が崩れた、自現機4台のうち2台は土台ごと動き内部のコンピューターが壊れた。CO₂は無事だった。
- ③17日は被災者の救援で放射線室の業務はできなかった、技師11名中9名が出勤した、18日の昼から機材を整備し一般撮影だけ再開した。

神戸救済会病院 中央区

- ①病院旧館の壁が崩れ、一部天井が落ちた。
- ②透視台が移動、シネの自現機の液混ざり。17日から4日程は水が出ないため、自衛隊から水をもって自現機を動かした。
- ③当日は技師8名中4名が出勤、翌日は6名出勤、残り2名は自宅が壊れたためまだ出勤できない。電気は当日10時に復旧した

編集後記

93年の釧路沖地震に始まり奥尻島大津波、三陸はるか沖地震そして今回の関西大地震と続く一連の地震災害に日本が地震の活動期に入ったとする学説もあるようです「備えあれば憂い無し」今回の災害を教訓として各会員の放射線室の再点検をお願いします。

トク